

投与量チェックDB

大分類

医療機関システム

調剤薬局システム

中分類

処方監査・
処方確認支援

概要

医療用医薬品の効能・効果、用法・用量に基づき適正な投与量範囲のチェックが可能なデータベース

特徴

効能・効果や投与経路別の
投与量を保持

年齢、体重や体表面積
に応じたデータを保持

現場の運用に合わせた
投与量の参照、チェック
が可能

投与量チェックDB

ご利用場面

- 電子カルテでの処方入力時の処方量チェック
- 電子薬歴、レセコンでの処方監査
- 調剤機器での処方監査

投与量チェックDB

用法に「適宜増減」の記載があるデータ例

医薬品名: セレネース錠1mg

参考) 添付文書の記載の抜粋
通常成人1日**0.75~2.25mg**から始め、徐々に増量する。維持量として1日**3~6mg**を経口投与する。なお、年齢、症状により**適宜増減**する。

効能・効果	統合失調症
年齢	15-999歳(成人)
1日量(最小~最大)	0.75~6mg
1日量上限値	NULL
1日量NULL最大値*	6mg

- 「適宜増減」等の記載時にチェックができるNULL最大値を設定
- システムでユーザチェック係数を設定し、NULL最大値に乗算した値でのチェックも可能

* 1日量NULL最大値：上限値の記載がなくNULLの場合に最大値を反映した値

投与量チェックDB

投与量のパターン別のデータ例

医薬品名: アダラートCR錠40mg

データテーブル1

効能・効果	狭心症	高血圧
投与経路	経口	経口
1日量(最小~最大)	40~40mg	10~40mg
1日量上限値	60mg	80mg

データテーブル2

効能・効果	不明(NULL)
投与経路	経口
1日量(最小~最大)	10~40mg
1日量上限値	80mg

- 投与経路、効能・効果の値の有無の組み合わせにより4パターンのデータテーブルからチェック可能

データテーブル	効能・効果	投与経路
1	○	○
2		○
3	○	
4		

Note: データテーブル3: 投与経路が不明、効能・効果ありの場合
データテーブル4: 投与経路、効能・効果共に不明の場合

投与量チェックDB

小児用量のチェック例（添付文書に小児用量の記載なし）

14歳の患者さんへの抜歯後の処方例

薬品名	処方量
ボルタレン錠25mg	1回2錠 痛いとき

ボルタレン錠25mgのデータ登録例

効能・効果	抜歯後の鎮痛
年齢	15～999歳(成人)
1回量(最小～最大)	25～50mg
小児換算フラグ	1

小児用量換算*により最大値38mg

チェック結果の表示例



投与量が許容範囲を超えています

- 小児の用法・用量の記載がない医薬品も小児用量への換算が可能

* Augsberger(アウグスベルガー)の式より換算: 小児量=成人量×(年齢×4+20)÷100